自由民主党嚆矢会行政視察

平成31年1月28日～30日

○ 1月28日

ボートレース多摩川

1月29日

富山市

○

シティプロモーション

まちなか総合ケアセンター

自由民主党嚆矢会行政視察　　友田秀明　　平成31年1月28日

ボートレース多摩川概要

多摩川競艇場は東京都府中市是政にあるが、施行者は青梅市と東京都四市競艇事業組合（小平市・日野市・東村山市・国分寺市）で年間180日開催の内、青梅市が154日、四市が26日となっていて、ほとんどを青梅市が施行しているが府中市は全く関係していない、初開催は昭和29年6月29日で施設概要は収容可能人員が29,450人、内イス席6,409人（一般席4,696人　特別観覧席1,506人　ロイヤルルーム40人　外向発売所1階36人　同2階有料席132人）立見席22,985人（内アプローチペース2,384人）　投票所は発売所11か所払戻所11か所で発売窓口は201ヶ所となっている。施設は全国24場のなかでも最も古いくらいで、その主な要因は施設保有者が施行者ではなく、西武グループの多摩川開発株式会社であるため、施設更新の協議がなかなか進まないということのようだ、江戸川競艇は施設所有者が公で施行者の委託で関東開発㈱にしていて運営がうまくいっていたと思うのだが、競艇場によっては、それぞれ行ってみないと分からない問題があることが分かった。売り上げは平成8年がピークで最近は年間売り上げが300億～350億で青梅市分では270億～320億、他場売り上げを含む年間総売り上げは320億～390億円となっている、電話投票が50%で徳山の70%と比較すると本場の売り上げが高いといえるが、後背人口お多く抱える東京ならではと思う、電話投票を伸ばせば増加できる要因があるのではないかと羨ましい点もある、因みに繰出し額は1億1千万～3億3千万で推移していたが、29年度は5億円繰出している。

自由民主党嚆矢会行政視察　　友田秀明　　平成31年1月29日

富山市　　平成27年4月1日7市町村新設合併で面積1,242、77㎢

人口417,227人

①シティプロモーションについて　　②まちなか総合ケアセンターについて

富山市シティープロモーション推進事業は富山市が「訪れたいまち」として様々な場面で選ばれるまちとなるため、市の認知度やイメージの向上を図るシティプロモーションを推進するとともに、市民の本市に対する愛着や誇りである「シビックプライド」の醸成を図ることを目的に取り組んでいる。掘り下げて解説すると、交流・定住人口を増やすために、まちの魅力を発見・再確認し市内外へ積極的に発信する、何故必要かというと、人口減少→地域経済の縮小＝市財政の硬直化→公共サービスの質の低下→まちの魅力の低下と負のスパイラルに陥るため認知度の向上・来訪者の増加それによる交流人口の増加へと繋げる政策・施策である、そしてその延長線上にシビックプライドの重要性へとつながり、自分たちが済んでいるまちに対して抱く住民たちの誇りを起こし、誇り・愛着の醸成→地域への関わりの増大へ、そして定住人口の維持・増加へと結びつけていこうというコンセプトである。つまりシティプロモーション×シビックプライドの相乗効果を狙った戦略として評価できる取り組みであり「しゅうニャンし」の知名度ＵＰだけの市民のプライドを失わせるようなものとは比較すべきものではないということがわかった。まちなか総合ケアセンターはH29年4月地域包括ケア拠点施設として開設、訪問診療や産後の回復支援、心・体の発達の遅れた乳幼児を支援する一元的・包括的な施設である。

視察報告　　平成３１年１月２８日　　尾﨑隆則

ボートレース　多摩川

ボートレース多摩川へは、ＪＲ中央線武蔵境駅から西武多摩川線競艇場前駅から徒歩３分。

水質は淡水。流れ・水位変化はなし

「日本一の静水面」と呼ばれて、風の影響も少ない。パワーとスピードが優先され、走りやすいので全速で攻める選手が多い。逃げとまくりが競り合うと高配当が出るレース場である。

施設所有者　　**多摩川開発株式会社**

収容可能人員　**２９，４５０人**

施工者　　**青梅市**

初開催は、　　**昭和２９年６月**

昭和６３年１０月　　多摩川初の第３５回全日本選手権ＳＧ競走。

平成８年６月　　第６回グランドチャンピオン決定戦。

平成１０年８月　　第４４回モーターボート記念競走。

平成１３年８月　　第４７回モーターボート記念競走。

平成１７年３月　　第４０回総理大臣杯競走。

平成２１年３月　　第４４回総理大臣杯競走。

平成２２年４月　　呼称を「競艇」からボートレースに変更。

平成２４年度から開催日数を１５４日とし、市への繰出金も最低でも１億円は繰出している。年間によって繰出金がさまざまになっているが、事情を聞くのを忘れた。

一番の収入源となるグレードの高いレースをこれまでに６回開催している青梅市と６８年ぶりにＳＧ競走をもらった周南市のトップセールスの違いがよくわかった。

視察報告　　平成３１年１月２９日　　尾﨑隆則

富山市シティプロモーションについて

まちなか総合ケアセンターについて

地方創生＝シティプロモーションであるが、周南市の取組みは根本から間違っている。４月１日のエイプリルフール（４月バカ）で何を言っても責任を持たない発想で、市民の税金を他人任せに流用していることだ。

富山市は「訪れたいまち」として、まち（市）の魅力を発見・発信して認知度の向上・来訪者の増加に向けて担当課が一丸となって取組んでいる。

特に、市立探偵ペロリッチ（市のアニメキャラクター）を活用して「秘密結社鷹の爪」等のアニメなどで、周南の春夏秋冬を発信すれば都会からの移住は考えられると思った。

他人任せにしないで、戦略はいくらでも出来る職員はいる。

まちなか総合ケアセンターは「医療・福祉・健康の交流拠点」として、リハビリテーション医療福祉大学校や調理製菓専門学校・グンゼスポーツ富山レガートスクエア・コンビニローソン・ナチュラル

カフェ広貫堂・立体駐車場（３２０台収容）・医師会看護専門学校などの施設で、高齢化の進展とともに賑わいが薄れつつある中心市街地において、人が集い、社会的・経済的・文化的活動が活発に行われ、より活力ある地域経済社会を確立していく拠点として、再生することを目指している施設である。

H31年 1月28日

ボートレース多摩川 運営について

古谷幸男

施行者は青梅市と東京都四市競艇事業組合で年間180日開催している。その中で青梅市が154日 四市競艇事業組合が26日となっている。施設が古く、24場の中でも最も古い施設であろう。その理由は施設保有者が施行者ではなく西武グループの多摩川開発(株)であるため積極的な展開はできていない。

しかし一般会計へ繰出し財政への貢献はできていると言える。約1億14万～35億34万でこれまで推移していたが29年度は5億円と大きく伸びている。

一般会計に寄与貢献することがボートレースの基本であることを考えればファンサービスのため施設改善と両立した方がよいのではなかろうかと思える。

H31年 1月29日

① 富山市シティプロモーションについて.
② まちなか総合ケアセンターについて. 古谷幸男

富山市では2つの項目を視察した.

・シティプロモーションでは「訪れたいまち」として市の魅力を発見発信、認知度の向上、来訪者の増加に向けて取り組んでいる. そしてまちの誇り愛着醸成をはかり地域への関わりから定住人口の維持、増加へと結びつけようとしている. 我市のしゅうニャン市などと違い半分で多額の税金を投入し何の根拠もない取り組みとは比較にならないものであった.

・まちなか総合ケアセンターでは、H29年4月に地域包括ケア拠点施設として開設されたもので、訪問診療、産後の回復支援、心体の発達の遅れを乳幼児を支援する一元的、包括的施設である。高齢化の進展で賑わいがなくなる中心市街地に人が集い社会的経済的、文化的活動が行なわれ活力が生まれる地域社会の拠点として再生を目指している. 図南市も中心市街地のあり方を再検討すべきではないかうか。